

ポケットプログレッシブ国語辞典

便 携

日语国語辞典

小学館辞典編集部 编



大连理工大学出版社

便携日语国语辞典

小学館辞典編集部 編

大连理工大学出版社

© SHOGAKUKAN 1998

未经大连理工大学出版社预先书面同意,任何人不得以任何方式复制或翻印本书任何部分的内容。

著作权合同登记号:06-2002年第060号
版权所有,侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

便携日语国语辞典 / 小学馆辞典編集部编 .
大连:大连理工大学出版社,2005.1

书名原文:ポケットプログレッシブ国語辞典
ISBN 7-5611-2064-8

I. 便… II. 小… III. 日语-辞典 IV. H366

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2004)第 038956 号

出版发行:大连理工大学出版社出版发行
(地址:大连市凌水河 邮编:116024)

印 刷:沈阳新华印刷厂印刷

幅面尺寸:80mm × 152mm

印 张:18.75

字 数:2355 千字

出版时间:2005 年 1 月第 1 版

印刷时间:2005 年 1 月第 1 次印刷

责任编辑:宋锦绣

封面设计:苏儒光

责任校对:萧 音

定 价:30.00 元

电 话:0411-84708842

传 真:0411-84701466

邮 购:0411-84707961

E-mail: dutp@ dutp. cn

URL: http:// www. dutp. cn

はじめに

本辞典は、現代の一般社会人が日常生活・会社の業務などにおいて手軽に使用できるよう、携帯に便利な小型版として刊行されました。当編集部では、これまでに『日本国語大辞典』(20巻本・10巻本)、『大辞泉』(1巻本)などの大型国語辞典を始めとして、『新選国語辞典』『現代国語例解辞典』などの中型国語辞典を多数編纂し刊行してまいりましたが、これらの経験と実績をふまえて、このような小型版国語辞典をここに刊行することができました。

本辞典のめざすところは、わかりやすく使いやすいという点を第一に置き、言葉の意味を簡潔に示すとともに多数の用例文を掲げて、読者が実際にその言葉を利用するに際しての便をはかりました。また、本書で工夫しました特色を2点あげますと、ひとつは、見出し語が検索しやすいように2色刷りを採用したことです。見出し語の2字目の五十音が変わる項目を赤字で示し、項目の流れが読者にひと目でわかるようにいたしました。もうひとつは、複雑な画数の漢字を大きな活字で漢字表記欄とは別に示したことです。これは、その漢字の構成を実際に目で見て確認しながら書き表す際に、非常に便利であると自負しております。

大辞典の姉妹版である『ポケットプログレッシブ英和辞典』『ポケットプログレッシブ和英辞典』なども、幸いに多くの方々に御愛用いただいております。これらの辞典に加えて、本書が多数の読者の御愛用と御叱正を賜りつつ、日常生活に欠くことのできない一書として、定着していくことを願ってやみません。

1997年10月

小学館 辞典編集部

(注:本辞典改为单色印刷)

記号・略語一覧

記号

- ・ 活用する見出し語の語幹と語尾の区切りを示す
- 【 】 見出し語に当てる漢字表記を示す
- 〈 〉 見出し語が外来語である時の原綴りを示す
- () 語原・用法・補注などを示す
- [] 外来語の語源・補注などを示す
- (()) 特にその漢字表記を用いる場合があることを示す
- 「 」 用例を示す
- (=) 用例文の意味を示す
- 追い込みの見出し語で省略されている部分を示す
- 用例文中の見出し語該当部分を示す
- ⇒ 参照項目を示す
- 関連する参照項目を示す
- ↔ 対義語を示す
- ①②③ 意味・用法の区分を示す
- ■ ■ ■ 品詞が異なる場合の区分を示す
- ☞ 派生語

〈 〉内の原綴りの略語

イ	イタリア語
オ	オランダ語
ギ	ギリシア語
ス	スペイン語
ド	ドイツ語
フ	フランス語
ポ	ポルトガル語
ラ	ラテン語
ロ	ロシア語
和	和製英語

品詞・活用の略語

- 名** 名詞
名形動 名詞であると共に形容動詞でもあるもの
代 代名詞
五 動詞五段活用
上一 動詞上一段活用
下一 動詞下一段活用
カ変 動詞カ行変格活用
サ変 動詞サ行変格活用
形 形容詞
形動 形容動詞
形動^{タルト} 「～たる」「～と」の形で用いる形容動詞
 (文語のタリ活用形容動詞)
副 副詞
連体 連体詞
接続 接続詞
感 感動詞
接頭 接頭語
接尾 接尾語
連語 連語
名スル 名詞であってサ変動詞ともなる語
副スル 副詞であってサ変動詞ともなる語
形動スル 形容動詞であってサ変動詞ともなる語

凡 例

1 編集の基本方針

本書には、現代社会において一般的に用いられる語を約7万語収録した。項目の選定にあたっては、基本的な現代語を中心に、そのほか新語・外来語をもできるだけ多く収録するようにつとめた。巻末の「アルファベット略語集」には、新聞・報道などでよく使われる略語を約1300語収録した。

2 見出しの表示のしかた

- (1) 和語・漢語はひらがな、外来語はカタカナで示した。
 (2) 外来語は普通に行われている書き表し方によって、長音「ー」や拗音「アイウエオ」などで示した。

アート(art) エディター(editor)

- (3) 見出し語と関連のある複合語の類は子見出しとした。子見出しをもつ親見出しは、かなで3文字以上からなる語とした。親見出し語と重複する部分は「-」で代用し、ゴシックで追い込んで掲げた。

あぶら【油】-揚げ -が切れる -煙霧 -照り

かんぜん【完全】-雇用 -燃焼 -無欠

- (4) 慣用句・ことわざの類も子見出し扱いとした。ただし、親見出しとして全形を漢字かな交じりで立てたものもある。

いし【石】-に嘔りついても -に立つ矢 -の上にも三年

飛ぶ鳥を落とす 開いた口が塞がらない

- (5) 活用する語には、活用語尾の前に「・」をいれた。

とまる【泊まる】国 うつくしい【美しい】国

- (6) 語幹と語尾の区別ができない語には「・」を入れなかったが、その語が下に付く複合語には語間に「・」をいれた。

みる【見る】国 ゆめ・みる【夢見る】国

3 活用語の見出し

- (1) 活用語は原則として終止形を見出し語として立てた。
 (2) 形動および形動と示した語は、語幹を見出しとした。

きれい【綺麗・奇麗】形動 かつこ【確固・確乎】形動

- (3) 名詞・副詞から派生したサ変動詞は、「スル」を添えて表示した。ただし、漢字1字に「する」が付くものは独立見出しとした。

あいぞう【愛蔵】スル

ぎよつと国スル

き・する【記する】国

なみた【涙】-する国

もの・する【物する】国

4 見出しの配例

- (1) かな見出しによる五十音順。
 (1) 外来語の音引きは、その直前の文字の母音により「アイウエオ」に置き換える。
 アース=アアス キープ=キイブ ゲージ=ゲエジ
 (2) 清音→濁音→半濁音の順
 はは→はば→ばば→ババ かか→かが→がが→がが
 ひけ→ひげ→ピケ ひざ→ヒザ→ピザ
 (3) 拗・促音→直音の順
 しゃく→しゃく かつて→かつて
 (4) カタカナ→ひらがなの順
 バン→ばん フード→ふうど ホーン→ほおん
 ボンボン→ほんほん→ボンボン→ぼんぼん
 (2) 見出しの表記欄の、漢字の字数の少ない順(漢字表記欄のないものはいちばん先)。

あか【赤】→あか【阿伽】 いま【今】→いま【居間】
むく【椋】→むく【無垢】→むく【無患子】

- (3) 表記欄の漢字の1字目の画数順(1字目が同じなら2字目……)。
4画 6画 7画 8画 9画 11画 13画 19画
井 → 夷 → 医 → 易 → 威 → 異 → 意 → 蘭
- (4) 外来語(かたかな見出しの語)は、見出し綴りのアルファベット順(横文字綴りのないものはいちばん先)。
ハム(ham)→ハム(ham)
ライター(lighter)→ライター(writer)
- (5) 検索の便をはかって、見出し語の2字目の音が変わる項目を赤字で示した。
あうん【阿吽・阿仏】
あえか【**影籠**】
:
あえん【亜鉛】
あお【青】

5 漢字表記

- (1) 見出しに当てられた標準的な漢字表記を【 】の中に示した。
あいじょう【愛情】 ながれ【流れ】 とくに【特に】
- (2) 漢字表記に繰り返し記号を用いた。
いい【易々】 あんあんり【暗々裏・暗々裡】
かんかんがくがく【侃々諤々】
- (3) ひらがな・かたかな・ローマ字で書く部分を含む語は、それらを含めて示した。
ごったに【ごった煮】 とがき【ト書き】
- (4) 漢字表記が複数ある場合は、原則として広く用いられるものを先に掲げた。
あおい【青い・蒼い】 かん【缶・罐・罐】
あんき【暗記・簡記】
- (5) 意味による漢字の使い分けが明確な語は、項目を別とした。また、同一項目内でも、ある特定の意味について用字が慣用化されている場合には、語義区分の初めに()でその用字を示した。
あいおい【相生】①……②(相老)……
ねる【練る】①(煉る)……②……③(錬る)……
- (6) 見出しに外来語が含まれている場合は、その部分に「一」を当てて示した。
アークとう【一灯】(arc) カービンじゅう【一銃】(carbine)
- (7) 複雑な画数の漢字(約110語)については、それを書き表す際の便を考慮して大きな活字で解説の近くに示した。

あご【顎・頷】①口の上下の部分。②下あご。おとがい。-が落ちるとともおしい。ほっぺたが落ちる。-が下がる収入がなくなって生活してゆけなくなる。-で使うういばった態度で人を使う。-を出がすひどく寝れる。へたばる。-を外導すおかしくて大笑いする。

顎

6 外来語


- (1) 言語名と原語での綴りを()の中に示した。英語の場合は、原則として言語名は省略した。
アーチ(arch) カルテット(イ quartetto)
カルタ(ポ carta) カルテ(ド Karte)
- (2) 漢字を当てる慣習のある外来語については、一般的なものに限り、原綴りのあとに【 】で示した。それほど一般的ではないものについては、適宜、解説の後ろに示すようにした。
ガラス(オ glass)【硝子】 ビール(オ beer)【麦酒】


カナリヤ(ポconucia)[金糸雀]



- (3) その語が中国語・朝鮮語・アイヌ語などである場合は、解説の前に〔 〕でそれを示した。
- アリラン〔朝鮮語〕 シューマイ〔焼売〕〔中国語〕
 マージャン〔麻雀〕〔中国語〕 カムイ〔アイヌ語〕
- (4) 原語音から著しく転訛した語は〔 〕でその原綴りを示した。
- カレーライス(curry and riceから) ガード〔gardから〕
- (5) 和製英語は〈和 〉で示した。
- アドバルーン(和 ad balloon) ガムテープ(和 gum tape)
- (6) ローマ字の略語は〔 〕の中にローマ字を示し、もとになっている綴りを〈 〉内に記した。なお、巻末付録「アルファベット略語集」では、ローマ字表記から引けるように配列した。
- アイオーシー〔IOC〕(International Olympic Committee)
 アイキュー〔IQ〕(intelligence quotient)

7 品詞

- (1) 見出し語の品詞などの表示には略語を用いた。(表紙裏の「記号・略語一覧」参照)
- (2) 名詞は品詞の表示を省略した。ただし複数の品詞を併記する場合には示した。

ものぐさ〔物奥・懶〕  ゆうやく〔勇躍〕  スル

- (3) 文語のタリ活用の形容動詞で、口語においては「～と」の形で副詞に、また、「～たる」の形で連体詞に用いるものは、品詞表示を  とした。


あぜん〔嗟然〕 えんえん〔延々〕

8 語源・語誌

語義記述の前に語源・語誌の説明および故事・ことわざの由来などを必要に応じて入れた。

あかゲット〔赤一〕(赤い毛布の意)
 ジャー(jar)(壺の意)
 げんかん〔玄関〕(玄妙な道に入る関門の意)
 じじゆん〔耳順〕(論語の「六十にして耳順がう」から)

9 語義解説

- (1) 同一項目内での意味・用法の区分を示す標準的な記号としては①②を用いた。また、品詞およびそれに準じる区分には  を用いた。

う〔卯〕①……②……


あまり〔余り〕 ……   ……   ……   ……

- (2) 語義解説の末尾に「↔」で対義語を示した。

あか〔赤〕①……②……↔青③……④……↔黒

うすい〔薄い〕①……↔厚い②……↔濃い

- (3) 用例は見出し語に相当する部分を「-」で示した。活用語については終止形以外で用いられた例は、語幹の部分を「-」で示し活用語尾は「・」のあとに記した。

お・く〔置く〕 ①……「血を-」「見張りを-」②……「支店を-」③……「日時を-」④……「仕事を-いて出かける」⑤……「心に-」⑥……「筆を-」

あせ・する〔汗する〕 ……「ひたいに-して働く」

- (4) 接尾語「がる」「げ」「さ」が付いた派生語は解説の末尾に  として示した。

かなしい〔悲しい・哀しい〕 ……  悲しがる  悲しげ  悲しき 

うけも・つ〔受け持つ〕 ……  受け持ち 

あ

あ【亜】■アジア(亜細亜)。「東〜」■(漢語)次々。準じる。「〜流」「〜熱帯」

あゝ【あ】のように。「〜ならおしまいだ」「〜言えばこう言う」

あゝ【嗚呼・噫・嗟】■①感動したとき発する言葉。「〜うれい」②承知・応答の言葉。「〜はいよ」

アーガイル(argyle) ひし形の格子模様。

アークとう【一灯】(arc) 2本の炭素棒の間に、弓形の白熱光をだす電灯、弧光灯。

アーケイック(archaic) 形動 = アルカイック

アーケード(arcade) ①洋式建物で、丸天井をもつ道路。②道路に丸屋根をつけた商店街。

アース(earth) 電気器具と大地をつないで、電気を大地に逃がす装置。接地線。

アーチ(arch) ①上方を弓形・半円形に造った建造物。②野球で、ホームラン。ーダム(—dam) アーチ状に張り出した形のダム。

アーチェリー(archery) 洋弓。また、それを使って行う競技。

アーティスト(artist) 芸術家。美術家や歌手・演奏家。アーティスト。

アーティフィシャル(artificial) 形動 人工的であるさま。

アート(art) 芸術。特に、美術。一紙、なめらかで、つやのある印刷用紙。ーシアター(—theater) 芸術映画専門の上映館。ーディレクター(—director) ①演劇の美術監督。②広告の制作責任者。

アーバン(urban) 都会の。都市の。「〜ライフ」

アーベント(—Abend) 夕方から開かれる音楽や映画などの催し。「モーツァルト(—モーツァルトの夕べ)」

アーミー(army) 軍隊。特に、陸軍。

アーミン(ermine) = おこじ

アーム(arm) ①腕。②腕木。③腕状の物。ーチェア(armchair) ひじかけいす。ーホール(armhole) 洋服のそでぐり。

アーメン(—āmēn) ①キリスト教で、祈りの終わりに唱える言葉。「まことに」の意。

アーモンド(almond) パラ科の落葉果樹。種子を洋菓子・料理に使う。

アール(—are) 土地の面積の単位。1アールは100m²。記号 a

アールエイチいんし[Rh因子] 血液中にある抗体物質の一。

アールエイチしきけつえきがた【Rh式血液型】血液中にRh因子があるものをRhプラス型、ないものをRhマイナス型に分ける血液型。輸血の際、両型の血液がまじるとショック症状をおこす。

アールデコ(—art déco) 装飾美術の一様式。1920~30年頃、欧米で流行。

アールヌーボー(—art nouveau) 19世紀末から20世紀初頭、フランスなどで流行した建築・工芸・絵画などの様式。植物などをモチーフにした曲線美に特徴がある。

アードラン(earned run) 野球で、投手の責任でとられた点。自責点。

アイ(eye) ①目。「〜マスク」②目に似た形・性質のもの。「マジック〜」

あい【相】(相) ①(い〜い)に。互いに。「〜四つ」「〜異なる」②語調を整えたり、改まった言い方にする語。「〜すまません」

あい【愛】①かわいがり、大切に思う気持ち。愛情。②異性をいとおしく思うこと。恋。

あい【藍】①タデ科の一年草。また、その葉・茎からとった染料。②濃い青色。靑藍然。

あい【合い】■合眼が。合着が。■(形動) ①ようす。ぐあい。「色〜」②意味をぼかしたり、語調を整えたりする語。「意味〜」「ころ〜」③互いに同じ動作をすること。「なぐり〜」

あいあい【蘭々】(形動) ①なごやかなさま。「和気〜」②草木のしげるさま。

あいあいがさ【相合傘・相々傘】男女ふたりが1本の傘を仲よくさすこと。

アイアン(iron) 頭部が鉄製のゴルフクラブ。ーウッド

あいいく【愛育】かわいがって、大切に育てること。慈育。撫育が。

あいいれない【相容れない】(形動) たがいにうけいれない。「〜仲」

あいいん【愛飲】かわ好んで、つも飲むこと。「地酒を〜する」

あいいん【合い印】書類で、他の書類と照合したしるしに押す印。合い判。

あいうち【相打ち・相撃ち・相討ち】双方が同時に打ちあひること。勝負なし。

アイエムエフ【IMF】(International Monetary Fund) 国際通貨基金。

アイエルオー【ILO】(International Labor Organization) 国際労働機関。

あいえんが【愛煙家】タバコを好んでする人。タバコのみ。

あいえんきえん【合縁奇縁】気が合う合わないは不思議な縁によるということ。

あいおい【相生】①1つの根から2本の幹が出ること。「〜の松」②(相老)夫婦ともに長生きすること。偕老が。

アイオーシー【IOC】(International Olympic Committee) 国際オリンピック委員会。

あいか【哀歌】悲しみをうたった歌。また、詩。エレジー。悲歌。

あいがかり【相懸かり】①将棋の序盤で、双方が同じ陣形で相対すること。②敵味方が同時に攻めかかること。

あいかざ【合い鏡】その鏡に合わせてつくった別のかざ。

あいかた【合方】①能で、はやし方。②歌舞伎で、せりふの間に入れる三味線。

あいかた【相方】①相手方。②(敵場)遊郭で、客の相手をする遊女。

アイカメラ(eye camera) 眼球の動きをとらえて記録する装置。

あいがも【間鴨・合鴨】マガモとアヒルを交配した雑種。肉は食用。ナキアヒル。

あいかわらず【相変わらず】(形動) これまでと変わらなく。「〜感勢がいい」

あいかん【哀感】もの悲しい感じ。

あいかん【哀歎】悲しみと喜び。

あいがん【哀願】同情心にとらえてたのみ願うこと。哀訴。嘆願。

あいがん【愛玩】かわ大切にしかわいがること。またなぐさみにすること。「〜犬」

あいき【愛機】愛用の飛行機・カメラなど。
 あいぎ【合着・間着】①春と秋に着る服。合服。②上着と下着の間に着る服。
 あいぎどう【合気道】柔術の一。当て身わざ・関節わざを主とする護身術。
 あいさやく【相客】①同じ部屋にとまりあわせた客。②同じ席の客。
 アイキャッチャー〈eye-catcher〉広告で人の目を引きつけるもの。
 アイキュー【IQ】〈intelligence quotient〉知能指数。
 あいさよう【愛郷】故郷を愛すること。
 あいさよう【愛敬・愛嬌】かわいらしいこと。かわいらしい物言い。愛想が。
 あいさようげん【間狂言】能で、狂言師が演ずる部分。あい。
 あいざん【愛吟】詩歌を好んで口ずさむこと。愛謡が。
 あいくち【合口・匕首】つばのない短刀。九寸五分。どす。匕首が。
 あいくち【合口】相性がいい。「～がよい」
 あいくるしい【愛くるしい】①圓いかにもかわいらしい。②愛くるしさ(因)
 あいけん【愛犬】犬をかわいがること。また、その犬。「～家」
 あいこ【相子】勝ち負けのないこと。
 あいこ【愛顧】目をかけ、引き立てること。ひいきすること。恩顧。
 あいご【愛護】かわいがり、かばい守ること。だいに保護すること。
 あいこう【愛好】愛し好むこと。
 あいごう【哀号】人の死などを悲しんで、泣き叫ぶこと。
 あいこうしん【愛校心】自分の学校や出身校を愛する心。
 あいこく【愛国】自分の国を愛すること。
 あいことば【合言葉】①前もってきめておく、合図の言葉。②標語。モットー。
 アイコノクラズム (iconoclasm) 偶像破壊。
 あいごま【間駒】将棋で、玉手を防ぐために駒を打つこと。また、その駒。
 アイコン (icon) コンピュータの操作を選択するのに使われる絵文字のこと。
 あいさい【愛妻】妻を愛すること。また、その妻。「～家」「～弁当」
 あいさつ【挨拶】①人に会ったとき、別れるときにかかわる言葉。②会合などで、饗礼として述べる言葉。③わび。返礼。
 あいし【哀史】悲しい出来事を記した物語や歴史。哀話。
 あいし【哀詩】悲しみをうたった詩。哀歌。
 あいじ【愛児】親がかわいがり、大切にしている子。いとこ。愛子。寵児が。
 アイシー【IC】〈integrated circuit〉集積回路。—カード ICやLSIを組み入れたカード。キャッシュカードなどに利用。
 アイシービーエム【ICBM】〈intercontinental ballistic missile〉大陸間弾道ミサイル。
 あいしゃ【愛車】愛用の自動車など。
 あいじゃく【愛着】①=あいじゃく(愛着) アイシャドー〈eye shadow〉目もとを引ききたたせるため、まぶたに塗る化粧料。
 あいしゅう【哀愁】うら悲しさ。もの悲しさ。哀感。憂愁。「～を帯びる」
 あいしゅう【愛執】心をひかれて、離れられないこと。愛着。執着。「～の念」
 あいしょ【愛書】①本が好きて、だいにす

ること。「～家」②愛読する本。
 あいしょう【哀傷】人の死を悲しみ嘆くこと。
 あいしょう【相性・合い性】互いの性格の合い方。合い口。「～がいい」
 あいしょう【愛称】親しみをこめて呼ぶ名前。ニックネーム。暱名が。
 あいしょう【愛唱】詩歌を好んでうたうこと。「～歌」
 あいしょう【愛誦】詩歌を好んで口ずさむこと。愛吟。
 あいじょう【哀情】もの悲しい気持ち。
 あいじょう【愛情】①ふかく愛する心。「～をそそぐ」②異性をしたう気持ち。
 あいじょう【愛嬌】ある人がかわいがり、大切にしている様。まなむすめ。—愛息
 あいじるし【合印】①味方であることを示すしるし。②(合額)2枚以上の布を正しく縫い合わせるためのしるし。③合印。
 あいじん【愛人】①恋人。②情婦。情夫。
 アイシング (icing) ①ケーキなどの表面に塗る。砂糖に卵白を加えたもの。②患部を冷やすこと。③アイスホッケーで、センターラインの後方からのパスまたはシュートが相手方のゴールラインを越えてしまうこと。
 アイス (ice) ①氷。②「アイスクリーム」の略。—キャンデー〈和—candy〉棒の形をした氷菓子。—キューブ〈—cube〉角状の氷。—クリム〈—cream〉牛乳・砂糖・卵黄をまぜ、凍らせた菓子。—スケート〈ice-skate〉スケート靴をはいて、氷上を滑るスポーツ。—スマック〈和—smack〉アイスクリームをチョコレートで包んだ菓子。スマック。—ダンス〈和—dance〉男女がペアで踊る、フィギュアスケートの一種目。—バーン〈和Eisbahn〉凍結して氷状になった雪の面。—ピック〈—pick〉氷を割る鎌。—ペール〈—pail〉卓上用の氷入れ。—ボックス〈icebox〉氷を入れて使う冷蔵庫。特に、携帯用の冷蔵庫。—ホッケー〈—hockey〉氷上でスケート靴をはいてするホッケー。
 あいす【愛す】因に愛する
 あいず【合図】①前もって決めた方法で知らせること。また、その方法。「～を送る」
 あいす【愛する】(因) ①かわいがる。②つくしむ。「子を～」③異性を慕う。「妻を～」④好む。「海を～」⑤大切に。「母校を～」
 あいせき【哀惜】人の死を悲しみ、おしむこと。哀悼。
 あいせき【相席】席が同じになること。
 あいせき【愛惜】①大切に。手放したくないと思うこと。
 あいせつ【哀切】(因) ①痛くても哀れで、もの悲しいこと。また、そのさま。
 あいせつ【哀絶】(因) ①このうえなく哀れなこと。また、そのさま。
 あいせん【相先】碁・将棋で、かわるがわる先手になること。たがい先。
 アイゼン [Eisengeisenの略]登山靴の底につける、すべり止めの金具。
 あいぜん【愛染】人物に心をひかれること。愛欲にとらわれること。傾倒が。
 あいぜんご【相前後する】(因) ①時をおかずに続いてする。「～して出発する」②順序が逆になる。「話～」
 あいそ【哀訴】同情心にうったえて、たのむこと。哀願。
 あいそ【愛想】①人あたりのよいこと。愛敬が。②好意。したしみ。「～を尽かす」③「お

あいそ)の形で)飲食店の勘定。一が尽きるとすっかりいやになって見限る。一がない態度が見限らない。無愛想だ。一尽かしあいてを見限ること。一もこそも尽き果てる「愛想が尽きる」を強めた言い方。

あいそう【愛想】にあいそ(愛想)

あいぞう【愛憎】愛とにくしみ。

あいぞう【愛蔵】多大切に所蔵すること。

あいそく【愛息】ある人がかわいがり、大切にしている息子。一愛娘

アイソタイプ(isotype) グラフや標識などに利用される絵言葉。

アイソトープ(isotope) 同位元素。同位体。

あいだ【間】①2つの物にはさまれた部分。中間。②時間的・空間的なへだたり。間隔。③ひとつづきの時間。期間。④きれめの時間。合間。⑤あいだから。一に立つ 双方の仲を取り持つ。

あいたい【相対】①さしむかいで事をする事。②互いに対等であること。一尽く 両方が納得の上で相談して決めること。

あいたいする【相対する】①互いに向かい合う。②対立する。「一主張」

あいだから【間柄】人と人との関係。「師弟の～」「親子の～」

聞いた口ぶが響かざるがらないあきれ返るものも言えない。

あいたしゆぎ【愛他主義】他人の幸福・利益を大切にする主義。利他主義。

あいたずかえる【相携える】①双方が互いに協力しあう。

あいちゃく【愛着】心をはひかれて、離れられないこと。愛執。執着。「一が強い」

あいちょう【哀調】もの悲しい調子。「一をおびたメロディー」

あいちょう【愛鳥】①野生の鳥をかわいがること。②かわいがっている飼鳥。一週間は「野鳥保護のために設けられた週間。5月10日から1週間。バードウィーク。」

あいつ【彼奴】因「あの一と」のぞんざいな言い方。やつ。きやつ。

あいつぐ【相次ぐ】因次から次へと続く。「一いで事故が起こる」

あいづち【相槌】①鍛冶ぎで、2人が交互につちを打ち合うこと。②相手に調子を合わせた受け答え。一を打つ 相手の話に調子を合わせて、受け答えをしたり、うなずいたりする。

あいて【相手】①一緒に事をする人。なかま。相方。相棒。②相対する人。敵。「手ごわい」③対象。「子ども～の番組」一取合る 因争いの相手とする。「因を～って争う」一にならない ①実力差がありすぎて勝負にならない。「弱すぎて～」②とりあわない。「めんどうだから～ほうかい」

アイディア(idea) ①理念。観念。アイデア。②思いつき。着想。「奇抜な～」一マン(一man)より着想を次々に出す人。

アイディーカード(ID—)(identity card; identification card) 身分証明書。

あいでし【相弟子】同じ先生・師匠のもとで学ぶなかま。同門。

アイテム(item) 項目。品目。品物。

アイデンティティー(identity) 自分は自分であり、他人とは違うことの確認。自己同一性。

あいとう【哀悼】人の死を悲しむこと。哀情。「～の辞」

あいどく【愛読】多好んでよく読むこと。「一書」

あいともなう【相伴う】①①連れ立つ。②一緒に現れる。「利害～」

アイドリング(idling) 多機械・自動車のエンジンを低速で空回りさせること。

アイドル(idle) 機械・工場が未使用の状態であること。

アイドル(idol) あこがれの人。人気者。

あいなかばする【相半ばする】①割合半分ずつである。五分五分法である。「功罪～」

あいなめ【鮎並・鮎魚女】アイナ・科の魚。近海の岩間にすむ。体長約30cm。食用。

あいにく【生憎】因運悪くあいが悪いさま。運わるく。「～の雨」

アイヌ(アイヌ語で人の意)主に北海道・サハリンに住む先住民族。

あいのこ【合いの子・間の子】①種類の異なる生物の間に生まれた子。②混血児。③どちらともつかない中間のもの。「一弁当」

あいのて【合いの手・間の手】①邦楽で、歌と歌の間に入れる三味線演奏。②歌・踊りに合わせて入れる手拍子やかけ声。③人の話の間にはさむ言葉。「～を入れる」

あいのむち【愛の鞭】愛するためにあえて示すべきいい態度。

あいのり【相乗り】①乗り物と一緒に乗ること。同乗。②共同ですること。「一広告」

あいは【愛馬】かわいがっている馬。

あいはむ【相食む】因互いに食い合う。「骨肉(一肉親同士が争う)」

あいはん【合い判】①合い印。②いく人かが連帯でおお印。

アイバンク(eye bank) 角膜移植のため、眼球提供者の登録・斡旋をする機関。眼球銀行。

あいはんする【相反する】因對立して一致しない。「一立場」

アイビー(ivy) 蔦。一スタイル(一style) アイボール。一リーグ(Ivy League) アメリカ東部の名門8大学の総称。また、その競技連盟。一ルック(一look) アイビーリーグの学生の間から生まれた服装。アイビースタイル。

あいびき【合い挽き】牛肉と豚肉をまぜて挽くこと。また、その挽いた肉。

あいびき【逢い引き・婿曳】多男女がひそかにあうこと。しのびあい。密会。

あいびょう【愛猫】猫をかわいがること。また、その猫。「一家」

あいぶ【愛撫】多やさしくなでまわすこと。「赤ん坊を～する」

あいふく【合服・間服】冬と夏の間に着る服。合着が。

あいふだ【合い札】①品物・金をあずかった証拠に渡す札。②わりふ。

あいべつ【哀別】多別れを悲しむこと。また、悲しい別れ。惜別。

あいべつりく【愛別離苦】仏教で、親・兄弟など、愛する者と別れる苦しみ。

あいべや【相部屋】他人どうしと一緒に同じ部屋にとまること。相宿。

あいは【愛慕】多愛ししたうこと。恋慕。

あいぼう【相棒】①かごと一緒にかつぐ相手。②一緒に事をする相手。

あいぼし【相星】両者の勝ち負けの数が同じである状態。本来は相撲用語。

アイボリー(ivory) 象牙。また、象牙色。

あいま【合間】①物と物の間。「木の葉の～」

②物事の切れめ。ひま。「勉強の～」

あいまい【曖昧】**形動** ①不確かなさま。あやふや。②いかがわしいさま。一模範**形動** ①はっきりしないでぼんやりしているさま。「～とした記憶」

あいまって【相俟って】**図語** 一緒になって。互いに合わさって。「両ター」

あいまたがい【相身互い】**名** 「相身互い身」の略)同じ境遇の人が互いに助けあうこと。

アイモ (Eyemo) 35ミリ携帯用撮影機。商標名。

あいもかわらぬ【相も変わらぬ】**図語** これまでと同じで、ちっとも変わりが無い。「～貧乏所帯」

あいやく【相役】同じ役目。また、その人。同役。同僚。

あいやど【相宿】同じ宿にとまること。相部屋。同宿。

あいよう【愛用】**名** 好んでいつも使うこと。常用。「～のカメラ」

あいよく【愛欲・愛慾】異性への強い執着。性的な欲望。情欲。

あいよつ【相四つ】相横で、得意の差し手が同じであること。「喧嘩が四つ」

アイライン (eye line) 化粧で、目を大きく美しく見せるために、墨でまつげのきわに引く線。目張り。

あいらく【哀楽】悲しみと楽しみ。

あいらしい【愛らしい】**形** かわいらしい。「～くさ」**図** 愛らしげ**図** 愛らしさ**図**

アイリス (iris) アヤメ科の植物の園芸種。

アイリッシュ (Irish) ①アイルランド人。②アイルランド風の。

アイルシート (aisle seat) 通路側の席。

あいにん【哀憐】あわれみの情。憐憫心。

あいろ【隘路】①狭くてけわしい道。②さしさわり。支障。障害。「販売上の～」

アイロニー (irony) ①皮肉。風刺。②反語。

アイロン (iron) ①熱で衣類のしわをのばす器具。ひのし。②整髪用のこて。

あいわ【哀話】あわれな話。悲話。

あう【会う・逢う】**図** 顔をあわせる。対面する。「正午に～約束をする」

あう【合う】**図** ①集まって一つになる。②調和する。「季節に～色あひ」③一致する。「好みが～」④ひきあう。「割に～わない」

あう【遭う・遇う】**図** たまたま出あう。出くわす。「吹雪に～」

アウストラロピテクス (Australopithecus) 世界最古の化石人類。南の猿の意。

あうせ【逢う類】=おうせ(逢瀬)

アウトアルキー (Autarkie) 自給自足経済。

アウト (out) ①テニスなどで、球が規定線外に出ること。②イン ②野球で、打者・走者がその資格を失うこと。③セーフ ④オブデイト (out-of-date) **形動** 時代遅れの。旧式の。⑤アップトゥデイト ⑥カーブ (curve) 野球で、打者の外側に曲がっていく球。⑦インカーブ ⑧コース (course) ①野球で、打者から遠いほうを通る球筋。②競走路で、中央より外側のコース。③インコース ④コーナー (corner) 野球で、打者から遠いほうの側。外角。⑤インコーナー ⑥サイダー (outsider) ①公認の組織に加わらない人・団体。「～組合」②既存の体制からはみだした人。局外者。③インサイダー ④サイド (outside) 外側。外角。⑤インサイド ⑥ドア (outdoor)

屋外。野外。「～スポーツ」⑦インドア ⑧プット (output) 電子計算機から情報を取り出すこと。出力。⑨インプット ⑩ボクシング (和 boxing) ボクシングで、フットワークを使って、あまり相手に接近しないでたたかう攻撃法。⑪インファイト ⑫ライン (outline) ①輪郭。輪郭線。②あらまし。概要。③ロー (outlaw) 法を無視する人。無法者。

アウトバーン (Autobahn) ドイツの自動車専用高速道路。

アウフヘーベン (Aufheben) 相反する概念をより高い概念に統一すること。止揚。

あうん【阿吽・阿伝】①はく息とすう息。呼吸。②一方は口を開き、一方は口を閉じた仁王やこま犬の一对。③一呼吸。④一緒に事をするときの互いの微妙な気持ち。

あえか **形動** 美しくかわいさま。「～な花」

あえぐ【喘ぐ】**図** ①息をきらす。「急坂に～」②苦しむ。「生活に～」**図** あえき**図**

あえて【敢えて】**図** ①押しきって。しいて。「～決行する」②別に。「～心配しない」

あえない【敢え無い】**図** あっけない。はかない。「～最期」

あえもの【和え物】野菜・魚・貝などをみそ・ごま・酢などとまぜあわせた料理。

あえる【和える・齧える】**図** 野菜・魚・貝などをみそ・ごま・酢などとまぜあわせる。

あえん【亜鉛】金属元素の一。青白色でもろい。合金材に利用。記号Zn

あお【青】①三原色の一。空色。②緑色。「～葉」③青信号。④赤 ⑤は藍より出でて藍がより青か ⑥弟子が先生よりえらくなることのため。出藍の誉れ。

あおあお【青々】副詞かにも青いさま。一面に青いさま。「～とした海原」

あおあらし【青嵐】初夏、青葉のころに吹く風。薫風。せいらん。

あおい【葵】アオイ科の植物の総称。タチアオイ・ゼニアオイなど。多く観賞用。①の紋は紋章の一。特に、徳川家の三つ葉葵の紋章。②葵 ③京都の賀茂神社の祭り。5月15日に行われる。

あおい【青い・蒼い】**図** ①青色である。②血の気がない。「～顔」③未熟だ。つたない。**図** 青さ・青み **図** 鳥島 (メーテルリンクの童話から) 身近にあるのに気づかない幸福。

あおいまといま【青息吐息】苦しみ悩んでいるようす。「不況で業界は～だ」

あおいろしんこく【青色申告】所得税・法人税の申告制度の一。青色の用紙を使用。

あおうなばら【青海原】青々とした広い海。

あおうま【青馬・白馬】①毛の色が黒く、青みをおびた馬。②白馬。また、黒毛の馬。「～の節会」(正月7日に行われた古い宮中の行事)

あおうみがめ【青海亀】ウミガメ科の大きなカメ。熱帯の海にすむ。正覚坊は。

あおえんどう【青豌豆】完全していないエンドウの青い実。グリーンピース。

あおかび【青黴】もち・パンなどに生える青緑色のかび。ペニシリンになる種もある。

あおがり【青刈り】飼料・肥料にするため作物をまだ青いうちに刈り取ること。

あおき【青木】①なま木。②常緑樹。③ミズキ科の常緑低木。葉に光沢がある。庭木用。

あおぎなこ【青黄な粉】青大豆をいって粉末にした食品。

あおざり【青栴】アオギリ科の落葉高木。樹

皮は緑色。街路樹などにする。
あおぐ【仰ぐ】①上を向いて見る。「天を〜」②うやまう。「師と〜」③請う。求める。「指示を〜」④就任してもらう。「議長に〜」
あおぐ【願ぐ・願ぐ】①風をおこす。あおる。「うちわで〜」
あおぐ【青草】青々とした草。
あおぐさ【青臭い】①青草のようなにおいがする。②未熟である。「〜表現」**青臭さ**①
あおくなる【青くなる】①恐怖や不安で顔が青さめる。「おどされて〜」
あおコーナー【青一】ボクシングのリングの、一方のコーナー。選手権試合では挑戦者のコーナー。-赤コーナー
あおさ【石蓴】アオサ科の緑藻。食用。飼料用。
アオザイ【*aosai*】(長い服の意)ベトナムの女性の民族衣装。
あおざかな【青魚】背が青緑色の魚。アジ・サバ・サンマなど。青物。
あおざめる【青褪める】①顔色が青白くなる。血の気を失う。「恐怖で顔が〜」
あおぞせ【青紫蘇】緑色の紫蘇。刺身のつまなどに用いる。
あおじゃん【青写真】①設計図などを、青地に白く印画した写真。②将来の構想。
あおじろ【青白い・蒼白い】①青みがかった白い。②顔色が悪い。血の気がない。**青白さ**①
あおしんごう【青信号】進行・安全を示す緑色の信号。-赤信号
あおすじ【青筋】①青色の線。②皮膚にすきとおる静脈。-を立てるひどく怒る。
あおせん【青線】昔、飲食店街でもぐりの売春が行われていた地域。青線地帯。-赤線
あおぞら【青空】①よく晴れた空。蒼天。碧空。②屋外。野外。-教室。屋外で行われる授業。
あおた【青田】①稲の青々とした田。②まだ稲の突っていない田。-買。①稲が突らないうちに米を買い約束をすること。②(①から)企業が早期に学生の就職を内定すること。青田刈り。-刈り。青田買。②-売買。青田のうちに収穫を見越して売買すること。
あおだじょう【青大将】日本産へび類の最大種。体長1.5m。暗緑色。無毒。
あおだけ【青竹】①幹の青い竹。②筍。
あおだみ【青畳】①新しい畳。②おだやかな態度のたとえ。
あおてんじょう【青天井】①青い空。青空。②上限がないさま。「株価は〜」
あおな【青菜】青々とした野菜。なっば。-に塩。すっかりしげ返るようす。
あおにさい【青二才】未熟な男をさげすんでいう語。
あおにび【青鈍】青みがかったねずみ色。喪服・僧衣の色として使われる。
あおのく【仰のく】因あおむく。
あおのけ【仰のけ】あおむけ。
あおのり【青海苔】緑藻類アオノリ属の海藻の総称。食用。
あおば【青葉】①青々とした木の葉。②初夏のみずみずしい若葉。新緑。
あおばえ【青蛇・蒼蛇】①イヌバエ科の大型のハエ。体は暗青色。②うるさくつきまとう人をののしっている語。
あおひょう【青票】せいひょう(青票)

あおびょうたん【青票】やせて顔色のすくれない人をあざけっている語。
あおぶくれ【青膨れ】顔の色が青くて、むくんで見えること。
あおぶさ【青房】相撲で、土俵上のつり懸根の北東のすみから垂らす緑色の房。-赤房・白房・黒房
あおまめ【青豆】①グリーンピース。②実が緑色で大つぶのダイズ。
あおみ【青み・青味】①青い色。また、青さの程度。②料理に添える緑色の野菜。
あおみどろ【青味泥・水綿】アオミドロ科の緑色糸状の淡水藻。
あおむく【仰向く】①顔が上を向く。あおのく。-うつむく
あおむけ【仰向け】顔を上に向けた状態。「〜に寝かせる」-うつむけ
あおむし【青虫】チョウなどの幼虫で、緑色のもの。いもむし。
あおも【青物】①緑色野菜。また、野菜類。②背が青緑色の魚。青魚。③。
あおやぎ【青柳】①葉の青々と茂ったヤナギ。②バカガイのむきみ。
あおり【煽り】①強風にゆれること。②あまたの勢い。余勢。余波。「ストの〜で列車ダイヤが乱れる」-立。-てる。③。さかんにあおる。さかんにそそのかす。しきりに扇動する。
あおる【呷る】①一息に飲む。「酒を〜」
あおる【煽る】①風をおこす。あおぐ。②ゆり動かす。ゆする。「強風がテントを〜」③そそのかす。たきつける。「聴衆を〜」
あか【赤】①三原色の一。赤色。②赤信号。-青。③共産主義。また、共産主義者。④赤字。-黒。-他人。-ま。た。く。関。係。の。な。い。他。人。
あか【垢】①皮膚のよごれ。②けがれ。「浮き世の〜」③水あか。湯あか。
あか【塗】船底にたまった水。「〜をくむ」
あか【銅】あかがね。どう。
あか【開加】仏にそなえる水。「〜棚」
あかあか【赤々】①真赤に見えるようす。「火が〜と燃える」
あかあか【明々】①きわめて明るいようす。「灯が〜とともる」
あか【赤い】①赤の色をしている。「〜花」②赤みを帯びている。「〜髪」③共産主義である。「〜国」**赤さ**・赤み①-羽。共。同。募。金。運。動。で。寄。付。し。た。人。に。与。え。る。赤。色。の。羽。根。
アカウント(account) 勘定。勘定書。
あか【赤絵】陶磁器などで、赤を基調にした上絵。また、その陶磁器。「万暦〜」
あか【赤鯛】アカエイ科の海魚。平たくうちわ形。食用。
あかがい【赤貝】フネガイ科の二枚貝。肉は赤色。食用。
あかがえる【赤蛙】アカガエル科のカエル。背が赤褐色。
あかがし【赤檜】ブナ科の常緑高木。材は赤色でかたい。
あかがね【銅】銅。あか。
あか【赤燕】赤いカブ。ラディッシュ。
あか【赤紙】(赤い紙を使ったことから)旧軍隊の召集令状の俗称。
あか【赤木】①皮を削りとった木材。②材の赤い木。③トウダイグサ科の常緑高木。材は赤く、家具用。
あが【足掻き】あがくこと。-が取れない動きが自由にならない。
あかざれ【脚・蹠】寒さのために手足の皮が

裂けたもの。

あかく【足掻く】①馬などが前足で地面をかく。②もがき苦しむ。「痛みに〜」

あかくなる【赤くなる】①顔恥ずかしさなどで、上気して顔が赤みを帯びる。

あかゲット【赤一】(赤い毛布の意)おのぼりさんのこと。明治のころ、赤い毛布をまわって都会見物にやってきた田舎者が多かったことからいう。

あかご【赤子】生まれて間もない子。赤ん坊。嬰兒が。みどりご。-の手を握るたい。そうたやすいことのとえ。赤子の腕をねじる。

あかコーナー【赤一】ボクシングの、リングの一方のコーナー。選手権試合ではチャンピオンのコーナー。-青コーナー

あかぞ【紫】アカザ科の一年草。若葉は紅紫色で食用。

あかさび【赤錆】鉄などに出る赤いさび。

あかし【灯】ともしび。あかり。灯明け。

あかし【証】証拠。証明。「身の〜をたてる」

あかし【明石】「あかしちぢみ」の略。夏、女性が着るちぢみの絹織物。

あかじ【赤字】収入より支出が多いこと。欠損。-黒字 -公債。国家が財源の不足を補うために出す公債。-線。鉄道・バス・航空などで欠損つづきの路線。

アカシア(acacia)①マメ科アカシア属の常緑高木の総称。材は家具・建築用。②ハリエンジュ(ニセアカシア)の俗称。

あかしお【赤潮】プランクトンの異常発生で海面が赤くなる現象。

あかじそ【赤紫蘇】赤色の紫蘇。梅干しの色づけなどに使う。

あかじみる【垢染みる】㊦㊧あかでよごれる。「〜みたシャツ」

アカシヤのアカシア

あかしんごう【赤信号】停止や危険を示す交通信号。-青信号

あかしんぶん【赤新聞】興味本位の記事を主とする低俗な新聞。

あかす【証す】㊦証明する。「潔白を〜」

あかす【明かす】㊦①あきらかにする。うちあける。「秘密を〜」②夜をすごす。

あかす【飽かす】㊦①飽かさせる。「相手を〜さない話術」②十分に使う。「ひまに〜して遊びまくる」

あかすの【開かずの】㊦閉じられたままで開かない。「〜間」-踏切

あかせん【赤線】昔、売春公認の飲食店が集中していた地域。赤線地帯。-青線

あかだし【赤出し】赤味噌仕立ての味噌汁。元来は大阪風の味噌汁。

あかだま【赤玉】①赤色の玉。②佐渡に産する赤石。庭石・盆石用。

あかちやくける【赤茶ける】㊦赤みを帯びた茶色になる。「曇が〜」

あかちゃん【赤ちゃん】赤ん坊の愛称。

あかテン【赤一】マーキュロクロムの俗称。

あかつき【暁】①夜明け方。あけぼの。②物事が実現・成就したその時。「当選の〜には、一層〜月のない明け方。陰曆で14日ごろまでの明け方。また、そのときの暗さ。」

あがつたり【上がった】㊦㊧商売などが不振で、行き詰まること。「商売〜」

あかつち【赤土】赤茶色の土。鉄分を含み、粘土質。粘土質。

アカデミー(academy)①学問・芸術に指導的な人々の団体。学士院、芸術院など。②

大学・研究所など研究教育機関の総称。-賞。アメリカ映画芸術科学アカデミーが最優秀映画作品・俳優・監督などに与える賞。オスカー賞。

アカデミズム(academism)学問・芸術上の伝統的・保守的な考え方・傾向。

アカデミック(academic)㊦㊧①学問的。学術的。「〜な研究書」②官学的。保守的。③実際のでないさま。

あかてんしゃ【赤電車】路面電車の終電車。行き先標識に赤電灯をつける。

あかてんわ【赤電話】赤色の公衆電話。

あかとんぼ【赤蜻蛉】赤色のトンボの総称。アキアカネ・ミヤマアカネなど。

あがなう【買う】㊦買求める。

あがなう【贖う】㊦つぐないをする。また、他のものでうめあわせをする。「罪を〜」

あかぬけ【垢抜け】㊦あかぬけること。洗練されること。「〜した物腰」

あかぬける【垢抜ける】㊦㊧やぼったさが抜け、粹になる。洗練される。

あかね【茜】①アカネ科の多年生つる草。根は赤褐色で、染料とする。②暗赤色。茜色。

あかのまんま【赤の飯】①赤飯置のこと。②イヌタデの異称。あかまんま。

あかはじ【赤恥】ひどい恥。大恥。註。

あかはた【赤旗】①危険・停止を示す赤色の旗。②共産党・革命勢力の旗。

あかはだ【赤肌・赤膚】①赤くすりむけた皮膚。②草木のない山肌。

あかはだか【赤裸】何も身にまわっていないこと。全裸。素裸。丸裸。

あかはら【赤腹】①ツグミ科の小鳥。胸・腹が赤色。②ウグイ。③イモリ。

あかびかり【垢光り】㊦衣類などがあかと汚れて黒く光ること。

あかぶさ【赤房】相撲で、土俵上のつり屋根の兩東のすみから垂らす赤い房。-青房・白房・黒房

あかふだ【赤札】安売り・売却済みなどの商品につける赤い札。

アガペー(agapē)キリスト教で、神の愛。また、自己犠牲の愛。-エロス

あかぼう【赤帽】駅で手荷物を運ぶ人。

あかばし【明星】明けの明星(金星)。

あかまいし【赤間石】山口県に産する、あざき色の凝灰石。すずり石に利用。

あかまつ【赤松】マツ科の常緑高木。樹皮が赤褐色。

あかまんま【赤飯】㊦あかのまんま

あかみ【赤み・赤味】赤い色。赤さの程度。

あかみ【赤身】①魚肉などの赤い部分。-白身②材木の中心部の赤いところ。心材。-白太

あかむけ【赤剥け】皮膚がすりむけて赤くなること。

あかめいも【赤芽芋】サトイモの一品種。芽が赤い。

あかめがしわ【赤芽柏】トウダイグサ科の落葉高木。若芽が紅色で美しい。

あかめる【赤める】㊦赤らめる。

あがめる【崇める】㊦尊敬する。敬う。

あがもの【贖物】①罪のつぐないとして出す金品。②身の災いをほらうため、代わりに負わせて川などに流すもの。形代。註。

あかもん【赤門】①朱塗りの門。②東京大学の俗称。校門の1つに①があることから。

あからがお【赤ら顔】赤みをおびた顔。

あからさま㊦ありのまま。おおびら。

あからむ【赤らむ】因赤くなる。赤みを帯びる。「顔が〜」

あからむ【明らむ】因夜が明けて、空が明るくなる。「東の空が〜」

あからめる【赤らめる】下赤くする。赤める。「顔を〜」

あかり【明かり】上①ともし火。灯火。②光。一先光のさし込んでくる方。一障子も白い紙をはった、普通の障子。一取り室内に外光をとり入れるための窓。明かり窓。

あがり【上がり】①位置・価格・価値などがあがること。一下がり②収入。収獲。③できあがり。できばえ。④すぐろくの最終局面。⑤勤務を終えること。⑥上がり花。一欄家の上がり口に渡した横木。一口座敷に上がる所や階段ののぼり口。一込む因よその家の部屋に遠慮なく入ってすわり込む。一花いれたばかりの茶。上がり。一土間などから座敷に上がる所。一目①目じりのつり上がった目。②物価や運などの上がり始めの時・状態。一下がり目一物①神仏へのそなえ物。②収入。また、収獲物。③召しあがり物。一湯湯船の湯とは別の、風呂からあがるときに使う湯。おか湯。

あがる【上がる】因①下から上に移る。一おりる・下がる②(揚がる)水中から陸に移る。「漂流物が〜」③風呂からでる。④大声が免せられる。「歓声が〜」⑤家・部屋に入る。⑥入学する。進級する。⑦昇進する。⑧スピードが上がる。⑨上達する。⑩効果が現れる。⑪雨がやむ。⑫すぐろくで最後の所に入る。⑬勤務を終える。⑭のぼせる。

あがる【挙がる】因①上のはうへ動く。「手が〜」②犯人がつかまる。③知られる。見つかると。「証拠が〜」

あがる【揚がる】因①空中高くのぼる。「花火が〜」②揚げものができる。「てんぷらが〜」

あがる【騰がる】因値が高くなる。

あかるい【明るい】因①光が十分にある。②ほがらかである。「〜性格」③よく知っている。「事情に〜」④公明である。「〜政治」⑤期待できる。「〜前途」一暗い因明るさ

あかるみ【明るみ】①明るい所。また、明るさ。「〜を増す」②公の場。「事件が〜にでる」

あかるむ【明るむ】因空やあたりが明るくなる。「雨が上がって〜」

アカンサス(acanthus)①キツネノマゴ科ハアザミ属の常緑多年草の総称。②①の葉を図案化した装飾文様。

あかんたい【亜寒帯】寒帯と温帯の中間の地帯。

あかんべえ 指で下まぶたを引き下げ、裏の赤い所を出して、相手に軽蔑や拒否の気持ちを示すしぐさ。また、その時に言う言葉。あかんべい。あかんべ。

あかんぼう【赤ん坊】生まれて間もない子。嬰兒が。みどりご。赤ちゃん。

あかんぼく【亜灌木】亜低木。

あき【秋】四季の一。夏と冬の間の季節。一日は約23°暑とし、秋の日の暮れやすいことのとえ。

あき【明き・空き】①すきま。余白。②欠員。③空席。④ひま。

あき【飽き・厭き】あきること。いやになること。「〜がくる」

あきあき【飽き飽き・厭き厭き】ひすっかり飽きていやになること。

あきあじ【秋味】秋、産卵のために河川をの

ぼってくるサケ。また、塩鮭詰。

あきうと【商人】=あきんど(商人)

あきおち【秋落ち】①秋に稲の生育が止まり、予想より収穫が減ること。②豊作で、秋の米価が下がること。

あきかせ【秋風】①秋に吹く風。すずかせ。②男女の愛情がさめること。「〜が立つ」

あきさき【秋草】秋に花の咲く草。

あきぐち【秋口】秋のはじめ。初秋。

あきご【秋蚕】夏頃から晩秋にかけて飼うカイロ。しゅうさん。一春蚕・夏蚕

あきさく【秋作】秋に栽培、または、成熟・収穫する作物。

あきざくら【秋桜】コスモスの異称。

あきさむ【秋寒】秋におぼえる寒さ。

あきさめ【秋雨】秋の長雨。秋霖。一前線秋、日本の南岸沿いに停滞して、長雨をもたらす前線。秋霖は前線。

あきしょう【飽き性・厭き性】あきやすい性質。うつり気。

あきす【空き巣】①鳥のいない巣。②留守の家。③②をねらうどろぼう。空き巣ねらい。

あきたいぬ【秋田犬】秋田原産の大型日本犬。天然記念物。

あきたつ【秋立つ】因秋になる。

あきたらない【飽き足りない】因あきたりない

あきたりない【飽き足りない】因十分に満足できない。ものたりない。飽き足りない。「〜成績」因飽き足りなげ因飽き足りなさ因

あきち【空き地】何も建っていない土地。使っていない土地。空地。更地。

あきつしま【秋津島】大和国名。また、日本の古名。

あきない【商い】①商売。売買。②売上高。一口①商売上のたぐみな話しぶり。②得意先。ひいき先。

あきなう【商う】因商売する。売買する。

あきなす【秋茄子】=あきなすび

あきなすび【秋茄子】秋に実なる、味のよいナス。あきなす。一薄皮に食わずな秋のナスは美味でもったいないから、嫁などに食わずな。一説に、秋のナスは体を冷やし、子供が産めなくなるので嫁に食べさせるな意。

あきのそら【秋の空】①変わりやすい秋の空もよう。②異性に対する人の心の変わりやすいことのとえ。「男心と〜」

あきのななくさ【秋の七草】秋を代表する7つの草花。ハギ・オバナ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ。一春の七草

あきばしょ【秋場所】大相撲の9月興行。

あきばれ【秋晴れ】秋の空が晴れ渡った状態。

あきびより【秋日和】秋晴れのよい天気。

あきびん【空き瓶・空き壺】からの瓶。

あきま【空き間】①すきま。間隙。②あき部屋。空室。

あきまさ【秋蒔き】秋に種を蒔くこと。一春蒔き

あきめく【秋めく】因秋の気配が感じられるようになる。

あきめくら【明き盲】①外見は正常な目と同じだが、実際は見えない目。②文盲。

あきや【空き家】人の住んでいない家。

あきらか【明らか】因明はっきりしているさま。疑いようのないさま。明白。

あきらめる【諦める】下だめだと思いきる。断念する。「留学を〜」

あきる【飽きる・厭きる】下満ちたりて

いやになる。「練習に～」「～ほど食べる」
あきれかえる【呆れ返る】**㊦**ひどくあきれれる。あきれはてる。
アキレスけん【一腱】(Achilles) ①腫瘍の骨の上の筋。歩行に重要。②致命的な弱点。
あきれはてる【呆れ果てる】**㊦**ほとほとあきれれる。あきれかえる。
あきれる【呆れる・憫れる】**㊦**あつげにとられる。あいそをつかさ。
あきんど【商人】商売人。あきうど。
あく【悪】①わるいこと。一善②芝居などで、かたき役。悪役。
あく【空く・明く】**㊦**①空間・すきができる。「席が～」役員のポストが～②からになる。「～いたびん」③ひまになる。「手が～」④使わなくなる。「道具が～いたら貸してください」
あく【開く】**㊦**ひらく。「ドアが～」「店が～」一閉まる
あく【飽く・厭く】**㊦**飽きる。
あく【灰汁】①灰を水に入れた上澄み液。②植物に含まれる渋味。③どぎつい。個性。
アクア(aqua) 水。液体。溶液。一マリン(aquamarine) 青緑色の宝石。3月の誕生石。アクアマリン。一ラング(aqualung) 水中呼吸器。商標名。
あくあらい【灰汁洗い】**㊦**灰汁で洗って家屋の柱などの汚れを落とすこと。
あくい【悪意】①いじわるな気持ち。②悪い意味。悪い見方。「～に取る」一善意
あくいんあつか【悪因悪果】悪い行いには、必ず悪い報いがあること。一善因善果
あくうん【悪運】①めぐりあわせが悪いこと。不運。②悪いことをしても、その報いを受けないこと。「～が強い」
あくえき【悪疫】たちの悪い流行病。
あくえん【悪縁】①悪い結びつき。「～を絶つ」②男女の間のくされ縁。
あくか【悪貨】**㊦**あつか(悪貨)
あくがた【悪形】歌舞伎でかたき役。悪役。
あくかん【悪漢】**㊦**あつかん(悪漢)
あくかんじょう【悪感情】不愉快な気持ち。悪意。悪感。
あくぎやく【悪逆】人道にそむいた。悪い行い。一無道[㊦] **㊦**このうえなく悪逆であること。あくぎやくぶどう。
あくぎょう【悪行】悪い行い。悪事。一善行
あくごう【悪業】前世[㊦]でおかした悪事。「～の報い」
あくさい【悪才】悪いことをする才能。「～にたける」
あくさい【悪妻】夫のためにならない妻。一良妻
アクサン([㊦]accent) ①アクセント。②フランス語で、母音の上につける記号「^ˆ」(アクサンテギュ)。「^ˆ」(アクサンダラブ)。「[˘]」(アクサンシルコンプレックス)の3種。
あくじ【悪事】悪い行い。悪行。一千重[㊦]を走[㊦]る。悪いことをすると、たちまち世間[㊦]に知れ渡る。
あくじき【悪食】①普通には食べない物を食べること。いかものくい。②粗末な食事。
あくしつ【悪疾】たちの悪い病氣。
あくしつ【悪質】**㊦**①たちが悪いこと。悪性。②質が悪いこと。粗悪。一良質
アクシデント(accident) 思いもかけない出来事。事故。
あくしゅ【悪手】囲碁・将棋で、まずい手。
あくしゅ【握手】**㊦**1. おいさつに、手を握り

あうこと。②仲直り。協力。
あくしゅう【悪臭】いやなおい。臭臭。
あくしゅう【悪習】悪い習慣。悪風。悪弊。「～に染まる」
あくしゅみ【悪趣味】**㊦**趣味品の悪い、不快な趣味。「～な飾りつけ」
あくしゅんかん【悪循環】互いに影響しあって際限なく悪化していく状態。
あくしよ【悪所】①けわしい場所。難所。②女遊びをする場所。遊郭。「～通い」
あくしよ【悪書】害になる本。一良書
あくじょ【悪女】①器量の悪い女。醜い女。「～の深情け」②性質の悪い女。
アクション(action) ①動作や行動。②演技。特に、動きの激しい演技。「～映画」
あくしん【悪心】悪事をしようとする心。悪念。一善心
あくしん【悪声】①悪い声。不快な声。②悪い評判。悪評。悪名。
あくせい【悪性】たちがよくないこと。悪質。「～の悪習」一良性
あくせい【悪政】民を苦しめる政治。一善政
あくせく【悪戯】**㊦**㊦気ぜわしく物事をするさま。「～働く」
アクセサリー(accessory) ①装身具。装飾用品。②機器類の付属品。
アクセス(access) **㊦**①コンピューターの記憶装置から、情報の呼び出しや書き込みをすること。②目的地へ行く交通手段。「～道路」一権[㊦]市民が情報を入力する権利。
アクセル(acceleratorの略) 加速装置。
あくせん【悪銭】不正な手段で得た金。一身に付[㊦]かず 悪銭はむだに使われ、すぐになくなりがちである。
あくせんくとう【悪戦苦闘】**㊦**①非常に苦しい戦い。「大軍を相手に～する」②必死に努力すること。「～の人生」
アクセント(accent) ①発音の際、1語の音節間にみられる高低・強弱の関係。②強調点。「プラウスのえりに～をつける」
あくそう【悪相】①恐ろしい人相。②不吉な前兆。
あくそう【悪僧】①墮落した僧。破戒僧。②武芸にすぐれた僧。荒法師[㊦]。
あくた【芥】ごみ。ちり。「塵[㊦]」
あくたい【悪態】憎まれ口。「～をつく」
あくだま【悪玉】悪人。悪人の役。一善玉
あくたれ【悪たれ】①いたずらっ子。わんぱく。②ひどいいたずら。一口。乱暴な物言。憎まれ口。「～をたたく」
あくたれる【悪たれる】**㊦**憎まれ口をきいたり、あくどいいたずらをしたり、乱暴をしたりする。
アクティブ([㊦]active) **㊦**活動的。能動的。一パッシブ **㊦**([㊦]active) 共産党・労働組合の活動家。積極分子。
あくてん【悪天】良くない天候。
あくどい【悪どぎつい】たちが悪い。「～手口」**㊦**あくどき**㊦**
あくとう【悪党】わるもの。悪人。
あくとう【悪童】いたずらっ子。悪太郎。
あくとう【悪道】①歩きにくい道。悪路。②仏教で、この世で悪事を行った者が行く苦しみの世界。③悪い行い。
あくとく【悪徳】人の道にそむいた行い。「～

齷齪